

授業科目名	文化施設運営論	担当教員	尾西 教彰 近藤 のぞみ
必修の区分	必修		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2 年 第 1 クォーター		
講義内容	この科目は、アートマネジャーの最も大切な職能の一つでもある、文化施設の企画と管理運営のスキル、舞台機構などの技術に関する知識、法規などの制度面、経営面、ホスピタリティなどの諸側面から論じ、実践に出るための土台を養成する。 また、劇場や音楽堂等の文化施設が、地域の文化拠点および社会基盤として果たすべき役割、今日的課題、将来の可能性について、劇場や創造団体のプロデューサー、アーティストといった多様な視点から、グループワークなども取り入れながら具体的に考え、議論する。		
到達目標	①文化施設の歴史、運営の仕組みを説明できる。 ②文化施設内の仕事を理解し、専門知識を得る。 ③文化施設の社会的役割について、議論できる。 ④事業企画の立て方について理解し、企画することができる。 ⑤文化施設の機構や設備、活用法について説明できる。		
授業計画	■組織と運営、維持管理業務について ①文化施設という存在 ―使命と役割―（尾西） ②文化施設の歩みと歴史 ―劇場は何のために必要か―（尾西） ③文化施設運営の基本 ―業務、組織、財源―（尾西） ◎ゲスト／栗原良明〔阪急電鉄(株)創遊事業本部歌劇事業部長〕 「劇場運営の実際～宝塚大劇場を例に～（仮題）」 ④劇場空間 ―機構と設備―（尾西） ⑤施設の維持管理 ―法令順守、安全・リスク管理―（尾西） ⑥劇場の管理運営～舞台技術の視点から～（尾西） ◎ゲスト／関谷潔司〔兵庫県立芸術文化センター舞台技術部長〕 ■事業企画を考える ⑦制作実務について 1 ―企画の視点（近藤） ⑧制作実務について 2 ―企画・予算の立て方―（近藤） ⑨制作実務について 3 ―広報・宣伝―（近藤） ⑩制作実務について 4 ―営業・票券・表方―（近藤） ⑪劇場を活かす、地域を活かす ―地域状況を踏まえた劇場活用を考える― （近藤）		

	<p>⑫全体のまとめ ―文化施設の役割と課題―（尾西、近藤）</p> <p>◎ゲスト／三坂恵美〔合同会社 Booster 代表社員〕が、⑦～⑪いずれかに入ります。</p>
事前・事後 学習	事前リサーチや、授業中に配布する資料等による振り返りが求められる。
テキスト	特になし。
参考文献	適宜指示する。
成績評価 の 基 準	授業への取り組み（40%）、レポート・発表（30%）、テスト（30%）
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	グループワーク及びプレゼンテーションがあります。また試験期間に試験があります。